

[第137回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 5年 4月



主 催 NPO法人高島藤樹会

■ 日 時 令和 5年 5月13日(土) 15時～17時

■ 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003

■ テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」

テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.224～(用意します)

塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

令和5年4月1日(土)、安曇川公民館で第136回藤樹人間学塾を開きました。今回は大阪からの参加者を入れて10名でした。うち女性2名。

■ テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第五巻 慈残報の序と第1話

■ あらすじ

序 慈はいつくしみ。わが子と継子を一樣に愛し育てること。残はそこなうこと。継子を憎みつらくあたること。慈愛は天道・人道の根本なので、幸福に至る。残は凶悪なので、自らが禍に遭うという報いがある。

第1話 魏の芒卯の妻は子供5人を残して早く亡くなったので、芒卯は後妻を迎えた。この後妻も3人の子供をもうけた。彼女は慈愛が深く、わが子と継子の区別なく一樣に情をかけたが、継子はなかなかつかない。ある時、継子の一人が重罪を犯し捕らえられた。彼女はたいそう心配して国王に嘆願書を出してついに解放された。以後、5人の継子は、彼女を本当の親のように接し、家は栄えた。

■ 配布資料

(1)「まなざし455号」、(2)「マザー・テレサ」、(3)「栗山英樹監督に学ぶ、名将の指導法」、(4)岡田武史・栗山英樹「稲盛さんに教わった人生で大切なこと」、(5)横田南嶺「忍辱多力」

■ 今日のポイント

- ・ 継子をわが子と同じように慈しんで育てれば、必ず情が通じて良い親子関係が得られる。
- ・ WBCで世界中の野球ファンを魅了した大谷翔平らの侍ジャパン。その侍ジャパンを世界一に導いたのは栗山英樹監督である。彼の思考法は、「艱難辛苦の日々を知恵にする」、等々。
- ・ 稲盛和夫氏は「小善は大悪に似たり 大善は非常に似たり」と言われている。スランプの人に可哀そうだから手を出したくなるが、それは小善で結局その人を潰すことになる。

■ フリートーク

- ・ 「秀吉の妻、ねねが継子を慈しんで育て、継子が彼女を実親のように慕っていたことが今日の話につながった」
- ・ 「栗山監督の話は非常にタイムリーで、彼が古典をよく勉強されていることが興味深かった」等の意見をいただきました。ありがとうございます。皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。

